

## 令和7年度第4回柏市教育政策審議会会議録

### 1 開催日時

令和8年2月9日(月)午前10時から

### 2 開催場所

柏市役所沼南庁舎5階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

金岡委員，山口委員，伊藤委員，野口委員，遠藤委員，鈴木委員，入道委員，寺本会長，丹間副会長，高橋委員，田嶋委員，阿部委員，荒井委員，菅原委員（計14名）

#### (2) 事務局

田牧教育長，平野学校教育部長，依田生涯学習部上席技監，松澤教育総務部次長兼教育政策課長，原学校教育部次長兼学校教育課長，高橋教育総務課長，黒澤教育政策課統括リーダー，柳澤教育政策課副主幹，布施教育政策課主査，武田教育政策課主任，平川教育政策課主事，飯塚教育施設課副参事，染谷学校給食課長，北川学校給食センター所長，渡辺学校財務課長，田中生涯学習課長，田所アフタースクール課長，福田教職員課長，麻生指導課長，滝児童生徒課長，堀内教育研究所長，山本市立柏高等学校事務長（計22名）

### 4 教育長あいさつ

### 5 報告事項

パブリックコメントについて

事務局より資料3，4に沿って説明した後，審議を行った。委員からの意見は次のとおり。

#### (山口委員)

パブリックコメントを見ると義務教育学校への関心が高いことが分かりますが，子ども主体の学びや，子どもあるいは現役の保護者の意見が少なかったのは残念です。このような計画を策定していく上では，今まさに学校で教育を受けている当事者の声をもう少し聞く工夫が必要だったのではないかと考えます。

#### (高橋委員)

やはり義務教育学校への意見が多いと感じました。今後進めていくにあたって，

説明や随時の検証が大切になってくると思います。

また、不登校児童生徒に関する校内フリースクールの在り方についても、本来通うべき学校以外のフリースクールにもいけるのかといった点もポイントになると感じました。

(伊藤委員)

パブリックコメントでの小中一貫校への関心の高さは、期待や応援だと捉えています。意見では他市の事例に触れているものもありましたが、10年、20年後の柏市の財政や子ども、教員の数を踏まえ、最適な教育環境を提供するために何が良いのか考えたときに、他市の事例を検証しつつ、柏として成功させるというつもりで進めていくのが良いと思います。

(田嶋委員)

私も年齢層の偏りが気になりました。決して高齢者の意見を軽視するわけではありませんが、幅広い層からのコメントが欲しかったところです。

また、幼稚園関係者としては幼保こ小のつながりに関する意見が1件だけだったのが少し寂しいと感じました。

(丹間副会長)

資料4の御意見を全て拝見しましたが、どれも教育に対する熱意を感じ、時間をかけて読み込んで書いていただいたことが伝わりました。計画への関心の高さを感じるとともに、大変ありがたく思いました。パブリックコメントは「量」だけでなく意見の視点や質といった「内容」が重要で、それを読み取り、答えていくということが大事だと感じました。パブリックコメントの制度自体に難しいところもございますが、若者や子育て世帯ももちろんのこと、子どもたちが意見を出せることが理想であると思います。他の例で、学生と授業で考えたり、地域で考える会を開いたりといった取組もありました。今回集まった意見は関心の高さを感じたところですので、しっかりと受け止めることが大事だと感じました。

## 6 議事

計画答申書について

事務局より資料5差替、資料6差替に沿って説明した後、審議を行った。委員からの意見は次のとおり。

(鈴木委員)

特段の指摘はありません。

パブリックコメントで様々な意見がありましたが、時代や地域の変化によって課題も変わると思います。

小中一貫教育は柏市としてもこれから取り組むもので、実施することによって見えてくる課題もあると思います。他市の話もありましたが、地域が違えば、運営方法や課題も違ったものが出てきます。必要なことは、課題が発生した際に、いち早く検討し、解決することで、より良い学校運営をしていくことだと考えます。

(阿部委員)

この計画の主役である子どもにパブリックコメントに参加してもらえるようなアイデアがあればよかったですと思います。

今回の計画は教育振興計画であるため、これからの柏市の教育を考えるための方向性が示されていれば良いとも思っています。

小中一貫教育は1つの大きな柱となっており、その具体的なメニューとして義務教育学校があると受け止めています。小中一貫教育を推進することの必要性や取り組むことの重要性につながるエビデンスをクリアに出せれば良かったという思いはあります。

施設については、一度作ると数十年縛られるものですから、将来を見据えた慎重なコンセプトが必要です。

(野口委員)

非常に丁寧にまとめられた答申書だと思います。子育て世代や教職員、柏で育っていく子どもたちに「魅力ある学校づくり」の思いが伝わるよう、私自身も頑張っていければと思います。

(金岡委員)

基本目標2の参考指標である「小学校1年生の学校が好きという割合」の基準値が91%で目標値が92%になっています。設定の背景として、学校に来られない子への配慮など、様々な理由があるとは思いますが、気持ちとして、この指標の目標値は100%であってほしいと感じます。

また、パブリックコメントの意見として挙げられていた水泳授業の民間委託について、本校でも取り組みました。最初は不安もありましたが、実際にやってみると専門家の指導など環境も良く、これまでも回数以上の伸びがみられました。子どもたちにも自分に合っているとの意見や温かいプールは好評でした。このような教職員が戸惑う取組でも、子どもたちへの影響やコスト面など教育委員会が考えた効果的な取組が増えていくとよいと思います。

恐らく本計画の肝は、資料6の9ページのアンケート調査結果(設問:どのような大人に育ってほしいか/どのような大人になりたいか)にある大人と子どもの認識のズレであると思っています。

私を含め大人は主体的に行動できる人がこれからの社会に必要であると感じていますが、子どもたちは認識が異なります。経験の浅さはあるかもしれないけれど、

その必要性を子どもたちにも理解してもらえらるような授業や活動を教育委員会からも取り組んでいただきたいと思いますし、学校としても、校長会としても話し合いながら取り組んでいきたい。本計画をそのための根拠資料として有効に活用できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

(遠藤委員)

パブリックコメントを受けての計画書への落とし込みは妥当だと考えます。

柏市が抱える課題等に対する今後の運営においては、現場の校長や教員の質、生徒の集団の質に応じて柔軟に対応していかななくてはならないと思ひます。

(入道委員)

小中一貫教育やアフタースクールなど様々な事業が急速に進んでいます。柏市全体としての方向性があることは良いと思ひますが、地域や学校によって状況は全く異なりますので、同じことを進めるにしても、それぞれの学校の状況を綿密に把握し、細やかな接し方をしていただきたいと思います。

特に、朝の見守り事業では、学校の状況をよく聞いてから実際に進めていくのが良いのではないかとと思ひます。

また、今後の小中一貫校を検討することについても、自身が当事者となれば、地域の方々は意見を持っていると思ひますので、地域への働きかけを丁寧にしてほしいです。

パブリックコメントについては、学校運営協議会に関する意見が少なかったのは寂しいですが、全校で取組を始めているので、校長が変わっても方向性が維持されるよう、教育委員会にも学校の様子をしっかりと見てほしいです。

(菅原委員)

パブリックコメントの現役世代の意見が少ないのが問題だと思ひました。保護者同士の会話では意見がでるはずだが、私がこの審議会の委員になったことを話しても、そもそも計画策定をしていることが知られていないので、もっと広く知らせることや、意見を出せるような環境を作っても良いかとと思ひます。

(荒井委員)

今週末に小中一貫校に係る地域説明会を開催しますが、パブリックコメントにあったような意見もよくお聞きします。小中一貫校については、メリット・デメリット両方ありますが、将来を見据えることが大切であるため、単純に他自治体の事例を踏まえて、話を進めることはいかがかと思ひます。

様々な意見が出ますが、地域説明会は、保護者世代の不安な点をお聞きする貴重な機会だと思ひています。

柏中学校の近くには県立東葛飾中高もあり、小中の連続性、中高の連続性、公立

学校が持つ役割、私立学校の持つ役割なども今後5年、10年で変わってくると思いますので、行政や教職員、在籍児童生徒、保護者世代の意見をお聞きしながら進めていきたいと思っています。

現役世代を含め幅広い世代から意見を吸い上げることが、このような基本計画の充実につながると思います。

(丹間副会長)

私たちが審議していく上で、アンケート調査も実施してまいりましたし、この4回の審議を通して、この計画の柱立ても、当初のものと比べても分かりやすく整理できたのではないかと振り返るところです。

直前にパブリックコメントを実施したことから、本日はそこに審議が集中していましたが、これまで4回の審議やアンケート調査、パブリックコメントを踏まえて計画を作ってきたことが大切だと考えています。

具体的に示された指標について、21ページで「基本目標や施策、取組の進捗を確認するためのもの」としておりますので、この大前提を忘れずにいてほしいです。数値だけを目的とせず、あくまで数字は5つの基本目標に設定してあるもので、それぞれの目指す姿につながっていくことが重要です。「なぜこの目標にしたのか」「何のための数字なのか」という視点で、目指す姿とのつながりを常に考えながら事業を進めていただくことが大事になるかと思っています。

また、指標データのとり方も大事です。「小学1年生の何月に調査したか」「どのようにとるか」「何故この学年にしたか」などで変わってくると思います。常に目指す姿とリンクさせながら、点検を進めていくという計画になっていると受け止めているところです。

(山口委員)

いじめや不登校、自殺の問題など、小中学校ともに同じ課題を抱えており、長い時間をかけて、子どもたちを支援していくという視点があるからこそ、小中一貫教育が大切なのだと思います。

5つの基本目標を達成するためには、柏市としては小中一貫教育が大切なのだということを、もう少し計画に盛り込む必要があったなと思いました。

5ページの書き出しが、人口減少や学校規模の課題から始まっているため「統合ありき」に見え、小中一貫教育や義務教育学校のポジティブな意義が伝わりにくいのではないかと感じました。不登校やいじめといった現在の課題に対し、小中学校が連携して子どもたちを支えていくのだという教育上の意義を先に打ち出し、その上で将来的には人口減少にも触れるような構成にすれば、より理解が得られたのではないかと思います。

7 答申

当日の審議を踏まえ、審議会の答申として提出いただいた。

8 委員より

(金岡委員)

事務局の皆様には、当初から私たちの思いや意見を受け止めていただき、大変な御苦勞があったと思います。この計画が柏の子どもたち、そして柏市を良くするための指針として活用されるよう、私たちも励んでまいります。

(山口委員)

1年間ありがとうございました。現場としては、この計画を先生方にどのように伝え、子どもたちと共により良い教育を目指していけるかが重要だと考えています。先日、児童会役員選挙で子どもたちが「自分たちで考えて作る学校にしたい」「誰かが一人ぼっちにならない学校にしたい」と話していました。子どもたちの声を聞く大切さを改めて感じましたので、今後の計画見直しの際にも、対話の時間をさらに作っていければと思います。

(伊藤委員)

1年間お疲れ様でした。特に事務局の皆様には感謝申し上げます。パブリックコメントなど多くの方々の意見を元に丁寧な作られた計画であることを実感しました。柏市の子どもたちや市民の皆様が幸せで楽しい日々を送れるよう、学校現場でも体力・気力が続く限り頑張りたいと思います。

(野口委員)

参加させていただき勉強になりました。子どもたちにとっての9年間は一生のうちで最も大切な時期です。本校でも教育目標を変える際、生徒会を中心に生徒・保護者・地域から意見をもらう仕組みを作りました。自分たちで作ったものだという意識を大切に、この計画を学校現場でも意識付けていきたいと思います。

(鈴木委員)

1年間お疲れ様でした。事務方の皆様の御苦勞を想像すると、本当に大変だったと思います。PTA連絡協議会としても、学校と保護者の橋渡し役として、子どもたちがより良い生活を送れるよう邁進していきたいと改めて思いました。

(入道委員)

小学校の入学当初、キラキラした目で登校する子どもたちを見ると、「小1ギャップ」といったネガティブな言葉ではなく、もっと楽しいことが待っているというポジティブな伝え方ができる世の中になればと思います。

また、先生方の多忙感ばかりが先行していますが、先生の素晴らしさも伝えていきたいです。地域の方々が子どもたちの真剣な姿を見て感動したという話もあります。学校と地域を結びつける役割を今後も果たしていきたいです。

(高橋委員)

貴重な機会をありがとうございました。私は福祉の部門におりますので、多様な教育ニーズにどう対応し、選択肢を広げていけるかが将来につながると考えています。福祉の領域でできることをしっかり協力してまいります。

(阿部委員)

このようにしっかりとした計画を仕上げられたことを嬉しく思います。一方で、現場の先生方が非常に多忙であることも痛感しています。私たちの世代が大切にしてきた「子どものために家庭まで足を運ぶ」といった教育の在り方が、今の時代にどう適応していくのか、注視しながら支えていきたいと思えます。

(田嶋委員)

私は柏で生まれ育ち、柏の学校にお世話になってきました。柏の今後の教育に大きく影響する計画に携わらせていただき、本当にありがとうございました。

(荒井委員)

保護者や社会を取り巻く環境が激しく変わる中で、皆さんとの建設的な対話は非常に有意義でした。子どもたちのために、青少年健全育成、そして幼・保・こ・小・中・地域の連携をサポートしていければと思います。

(菅原委員)

こうした会議に出るのは初めてでしたが、これほど多くの方々が私たちのことを真剣に考えてくださっているのだと感謝しています。「生きる力」という言葉が盛り込まれたのは素晴らしいと思います。子どもたちが自分の力を信じて明るい未来へ進めるよう願っています。

(丹間副会長)

7ヶ月間、4回の審議でしたが、一回一回が非常に記憶に残っています。15人の委員がそれぞれの回でしっかりと発言し、事務局がその意見を次の会議までにきちんと反映させてきたことが、この密度の高い審議につながったのだと感じています。パブリックコメントやアンケートなど市民の声を聞く配慮もありました。計画ができてからが大変だと思いますが、力を合わせて進めていきましょう。

(寺本会長)

皆様、御協力ありがとうございました。自分たちの教育や学びを自分たちで作っていくという内容は、これからの子どもたちにとっても重要なメッセージになります。今回の議論では、先生方、地域、家庭、そしてパブリックコメントを通じて市民の方々の思いも反映できたと思います。私は教員養成に携わる立場として、この計画が、子どもたちの学びや現場の先生方の教育活動にどのように影響が及ぶのか常に考えてきました。柏市が社会の激しい変化から取り残されることなく、かつ、個別性や地域性を考慮することを忘れることなく、丁寧な調整プロセスが大切になってくると思います。今回の議論を通じて何とか着地できたことに安堵しています。本当にありがとうございました。

(教育長)

会長より第3次教育振興計画の答申を確かに受領いたしました。委員の皆様には貴重な御意見を賜り感謝申し上げます。この計画は作成して終わりではありません。どう具体化し、市民や子どもたちに「見える化」していくかが重要です。知らない間に進んでいたということがないように丁寧な説明を心がけます。柏の子どもたちが「柏で学んで良かった、これからも柏で学びたい」と思えるよう実行してまいります。今後ともよろしく願いいたします。

## 9 傍聴

### (1) 傍聴者

5人

### (2) 傍聴の状況

傍聴要領に反する行為は、見受けられなかった。